

【今年度の結果と取組みについて】

○●国語●○

(領域ごと)

- | | |
|------------|-------------|
| ①話すこと・聞くこと | 概ね良好な結果であった |
| ②書くこと | 概ね良好な結果であった |
| ③読むこと | 概ね良好な結果であった |
| ④言語事項 | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|---------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | やや課題が残る結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問 4-① 漢字を読む(伸ばして)
- ・もっとも正答率の低かった設問 /もっとも無解答率の高かった設問 3四 「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く
- ・もっとも無解答率の低かった設問 1二 話し合いでの発言について説明したものとして適切なものを選択する /2一 意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する/3一「呼吸のみこんだ」の意味として適切なものを選択する /4二 「随時」の意味として適切なものを選択する

分析

領域ごとには各観点とも「概ね良好な結果」であった。授業ではリーディングスキルを鍛える練習問題を繰り返してきたが、そうした「読解力」の向上にむけて継続的に取り組んできた内容が、結果に結びついたと考えられる。

一方、上記の取り組みでは「リーディングスキル」に焦点を絞るため、選択形式を採ったが、これが記述式の問題に「やや課題が残る」ことになった原因となったともいえる。記述力の土台としてまず読解力が必要である、と位置付けて基礎を中心に取り組んできた。今後、この基礎の上に正確な記述力を築いていくことが課題となる。

○●数学●○

(領域ごと)

- ①数と式 概ね良好な結果であった
- ②図形 概ね良好な結果であった
- ③関数 概ね良好な結果であった
- ④資料の活用 概ね良好な結果であった

(問題形式)

- ①選択式 概ね良好な結果であった
- ②短答式 概ね良好な結果であった
- ③記述式 概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

・もっとも正答率の高かった設問 7(1) 与えられた表やグラフから、砂の重さが 75g のときに、砂が落ちきるまでの時間が 36.0 秒であったことを表す点を求める。
・もっとも正答率の低かった設問 8(3) 「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する。
・もっとも無解答率の高かった設問 8(3) 「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する。
・もっとも無解答率の低かった設問など 3 中心角 60° の扇形の弧の長さについて正しいものを選ぶ。ほか 1, 8(2)

分析

領域ごとには各観点とも「概ね良好な結果」であった。授業内での『学びあい』や日ごろから授業に復習を取り入れることで、知識の定着や技能の向上が成果として出ている。また、最後まで粘り強く問題に向かうことや無解答をなくすことに取り組んできた成果が現れている。

課題としては、数学的な考え方を活用する問題を苦手としていることがあげられる。『学び合い』を継続して取り入れ自分の考えを他者に伝えられるようにし、伝えたことを文にできるよう指導していくことで、記述問題に対しての苦手意識をなくしていきたい。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

平均正答率は、過去5年間の正答率の平均と比較すると、国語と数学の合計で上回っている。
また、無回答率は、過去5年間の無回答率の平均と比較すると下回っており、正答率も無回答率ともこの5年間は漸進傾向にある。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層 についての分析

それぞれの割合を、過去5年間の平均と比較すると、学力高位層は大きく上回り、学力低位層とエンパワー層は下回っているため、学校全体の学力は上昇傾向にあるといえる。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

授業力の向上

(1) 年3回の授業力向上研修

「全員が参加し『学び』が保障された授業」を目指し、教職員全体で研究を進める。

(2) 全教員授業参観交流

全教員が校内で授業を公開、たがいに参観し、「思考力(じっくり考える力)、表現力(正しく相手に伝える力)の育成」に焦点を当て、授業改善に努める。

(3) 教科会議

年間5回以上、各教科の連携を深め、より深い授業研究を目指す。

自学自習の改善

(1) 計画的な宿題

各教科、テスト前に集中して宿題を課すのではなく、定期的に着実に力をつけるように課す。

(2) 一人一台端末の活用

ミライシードやMicrosoft team を活用して、生徒一人一人に応じた課題設定の研究を進めて、主体的に学習に取り組む態度を育める学習環境の構築を目指す。

保幼小中連携

(1) 小中授業実践項目

中学校入学後の子どもの不適應予防、学力向上のため、小中で授業の基本的な流れを統一。

(2) 保幼小中連携カリキュラム

校区全体として、「目標に向かって最後まで努力できる子どもを育てる」を目標に、学習指導で「つながり力」「ゆめ力」、生活指導で「自己管理能力」「伝達力」、教科指導で「書く力」「論理的思考」をそれぞれの発達段階の応じたステップを定めて、保幼小中で連携して育成を進めていく。今年度は、「自己管理能力」のステップの見直しを行う。

(3) 保幼小中合同研修、保幼小中合同授業研修

校区全体で統一されたテーマを、各校園所で研究し、合同研修にて交流、進行状況の確認、修正を行う。